

Broaden your horizons ～さあ、視野を広げて!～

季節が移り変わるように、薬剤師国家試験も移り変わっています。今年の国家試験から禁忌肢問題が出題されるようになりました。禁忌肢問題とは、合格ラインに到達していても「薬剤師として不適切な選択肢」を選んでしまった場合、不合格になるというものです。

そのほか、国家試験では統計学が出題され、学生にとって苦手分野となっています。私は高校生のころに統計学を学んだ記憶がありますが、大学では申し訳ないのですが…学んだ記憶がありません。皆さんはどうですか？

近年、統計学に関する一般書籍が流行っています。統計学は、日本では明治維新前後に導入されたと言われており、後に「日本近代統計学の開祖」と称される杉亨二さんが、国勢調査で用いています。また、同時代の偉人、福沢諭吉さんや大隈重信さんも統計学を深く理解し、日本にとって必要なものであると認識。特に大隈さんは「根拠となる数字に基づいた議論によって政治も行われなければならない」と統計学の重要性を訴え、統計院の設立に尽力しました。すごいことだと思います。

現在、日本は医療業界も含めて大きな転換期であり、情報やデータがあふれています。今度は薬剤師がその中で良質なデータを分類し、根拠を持って患者さんに薬剤の適正指導を行う“医療維新”を起こしていきましょう。

メディセレスクール ファウンダー 児島 恵美子